

令和5年度 成長力強化に貢献する質の高い教育

1. 授業科目名

「地域社会体験 B」「地域交流」「地域と観光 I」「地域と観光 II」

2. 連携している地元産業界等の組織名称

鳥取県、一般社団法人鳥取中部観光推進機構、一般社団法人山陰インバウンド機構、倉吉博物館、一般社団法人 Work Design Lab、公益財団法人とっとりコンベンションビューロー、(株) ラークコーポレーション、(株) 小銭屋、有限会社望湖楼、倉吉市ホテル旅館組合、倉吉観光 MICE 協会

3. 当該授業等を実施する学部・学科

鳥取短期大学 国際文化交流学科

4. 当該授業等を開講する目的および内容

四つの科目はいずれも鳥取県と締結した観光人材の育成に向けた寄付講座の設置に係る協定にもとづき、鳥取県で求められる創造的な能力を備えた観光人材育成を目的として開設した「創造的観光人材育成プログラム」の中核となる科目である。「創造的観光人材育成プログラム」では、地元観光産業・観光推進機構等からなるコンソーシアム会議を定例的に開催し、地元観光産業の課題、学生が学ぶべき内容と身につけるべき能力についての助言を受けた上で授業内容の構成に反映している。

「地域社会体験 B」では、鳥取県等と連携したフィールドワークを実施。「地域交流」では、鳥取中部観光推進機構事務局長による特別講義の実施に加えて、地域観光資源の開発を主題とする PBL を展開しコンソーシアム会議のメンバーとの意見交換会（「とりたん生と語る会」）を開催。「地域と観光 I」では、授業にかかわるスタディツアーとして旅館・三朝館での接客研修、鳥取中部地区での街歩きガイドツアーを実施。「地域と観光 II」では、関金温泉及び蒜山高原での視察合宿を実施。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年(集中)	1年次	2単位	選択
担当教員			
渡邊 太			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	30時間	国際文化交流学科	専門科目
添付ファイル			

授業概要	地域社会における観光振興の課題について、観光資源の発掘などフィールドワークを通じて考察する。観光の枠組みを通じて地域の魅力を再発見するとともに、フィールドワークと成果発表を通じて課題解決に必要なコミュニケーション力を養う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域観光の現状と課題について理解する。(①)</li> <li>・地域観光の課題を発見し、分析することができる。(②)</li> <li>・グループで協力し、積極的に地域の人々とかかわることができる。(③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	イントロダクション：観光を通じた地域社会の理解	渡邊	【事後】地域観光について情報収集する。	2
	2	観光と地域活性化	特別講師、渡邊	【事前】図書館とインターネットを活用し、情報収集する。 【事後】授業内容を復習する。	4
	3	フィールドワーク① 地域の現状と課題	渡邊	【事前】図書館とインターネットを活用し、情報収集する。 【事後】データを整理する。	4
	4	フィールドワーク② 観光資源の理解	渡邊	【事前】フィールドワークで得たデータを整理する。	4
	5	観光とビジュアル・コミュニケーション① 視覚記号とは	特別講師、渡邊	【事後】授業内容を復習する。	4
	6	観光とビジュアル・コミュニケーション② デザインとは	特別講師、渡邊	【事後】授業内容を復習する。	4
	7	観光とビジュアル・コミュニケーション③ 表現の工夫	特別講師、渡邊	【事後】課題に取り組む。	4
	8	観光とビジュアル・コミュニケーション④ 広報メディアの作成	渡邊	【事後】課題に取り組む。	4
	9	地域観光の活性化	特別講師、渡邊	【事前】図書館とインターネットを活用し、情報収集する。 【事後】授業内容を復習する。	4
	10	フィールドワーク③ 写真撮影ワークショップ	特別講師、渡邊	【事後】フィールドワークで得たデータを整理する。	4
	11	フィールドワーク④ 講評とふりかえり	特別講師、渡邊	【事後】成果を発表資料にまとめる。	4
	12	発表会準備：資料作成とリハーサル	渡邊	【事前】発表会の資料を作成する。 【事後】発表の練習を重ねる。	4
	13	成果発表会	特別講師、渡邊	【事後】発表内容を報告書にまとめる。	4
	14	報告書の作成	渡邊	【事後】報告書を完成させる。	4
15	まとめ：地域社会への貢献	渡邊	【事後】全15回の授業で学んだ内容を整理する。	6	
教材(テキスト、プリントなど)	資料を配布する。				
教材(参考文献など)	遠藤英樹ほか編(2019)『現代観光学』新曜社 JTB総合研究所編(2020)『インバウンド概論 改訂第5版』JTB総合研究所発行 その他、適宜指示する。				
評価方法	発表10%、授業態度30%、提出物60%				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	提出物に対する評価を返却する。				

の方法	
資格選択区分	
教職科目の位置づけ	
実務経験のある教員による授業科目の配置	
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	可（若干名）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
板倉 一枝・岡野 幸夫			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	1 5 時間	国際文化交流学科	専門科目
添付ファイル			

授業概要	この授業は、グループごとに地域に出かけてリサーチ活動を行います。また調べた内容をもとに地域課題について考察したことを発表し、地域住民との意見交換を行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に関心を持ち、地域課題に対して主体的にかかわろうとしている。(①)</li> <li>・調べたことや地域課題についてまとめ、人前でわかりやすく発表・提言、意見交換ができる。(②③)</li> <li>・グループ活動に積極的に参加するとともに、自分の役割を責任をもって遂行できる。(①③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	ガイダンス（「地域交流」のめざすもの）	板倉・岡野	【事後】調査内容に関して情報収集を行い、地域課題を見つける。	2
	2	リサーチテーマについて考える（地域の実情を知る）	板倉・岡野（特別講師）	【事後】講義の内容に関して、さらなる情報収集を行う。	2
	3	調査計画の立案、テーマについての下調べ	板倉・岡野	【事前】調査候補について下調べを行う。グループで調査の計画を練る。	3
	4	グループ討議	板倉・岡野	【事前】調査候補についてさらに調べる。自分なりのアイデアを検討し、授業時にグループ内で紹介できるようにしておく。	4
	5	調査内容の報告とまとめ	板倉・岡野	【事前】グループでアイデアをまとめ、発表の準備を行う。 【事後】結果をレポートにまとめる	6
	6	発表の準備	板倉・岡野	【事前】グループで成果物（レジュメ、スライド等）を作成し、発表練習を行う。	7
	7	調べたことを発表・意見交換する（地域の方との意見交換会の実施）	板倉・岡野	【事前】グループで発表の練習を行う	2
	8	振り返り、今後に向けて（主体的に地域と関わるには）	板倉・岡野	【事後】個人レポートを完成させる。	4
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
教材（テキスト、プリントなど）	テキストは使用しない。 必要に応じて資料を配付する。				
教材（参考文献など）	必要に応じて授業時に紹介する。				
評価方法	提出物 50%、授業態度 30%、発表 20%				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループで作成するレジュメやPowerPointのスライド資料については、授業内および授業外に添削し、指導を行う。				
資格選択区分	ビジネス実務士資格選択				

教職科目の位置づけ	
実務経験のある教員による授業科目の配置	
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	不可
備考	「プレゼンソフト活用演習」も併せて受講し、プレゼン技法についても学んでください。

講義科目名称： 地域と観光 I

ナンバリング： 1-1-2-09

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後 期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
岩崎 比奈子			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	1 5 時間	国際文化交流学科	特別科目
添付ファイル			

授業概要	観光に関する基礎的知識を体系的に習得するとともに、観光地の具体的な事例についてグループワークを行うことで、観光文化についてより深く学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光学の基礎を学び、観光文化の理解を深める。(①)</li> <li>・観光に関する情報を収集し、効果的に活用できる。(②)</li> <li>・観光について主体的に課題解決に取り組むことができる。(③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	0. オリエンテーション 1. 観光がもたらす効果・影響	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	2	2. 観光資源（全国、鳥取県）、旅行形態の変遷	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	3	3. 最近の旅行動向（全国、鳥取県）	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	4	4. 観光産業と商品・サービス	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	5	5. 訪日外国人（インバウンド）の旅行動向と受け入れ環境整備	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	6	6. 観光による地域振興① ＜ケーススタディ：議論＞	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、授業で取り組んだグループワークを完成させる。	4
	7	7. 観光による地域振興② ＜ケーススタディ：発表＞	岩崎	【事前】 発表の準備を行う。	3
	8	8. 観光政策の概要と観光推進組織 9. 総括	岩崎	【事後】 個人レポートを完成させる。	8
教材（テキスト、プリントなど）	資料は適宜、配付する。				
教材（参考文献など）	JTB総合研究所『観光学基礎(第8版)』				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出状況・理解度 50%</li> <li>・グループワーク（議論・発表）への参画状況 50%</li> </ul>				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題内容に応じて、授業の中で補足や追加の解説を行う。				
資格選択区分					
教職科目の位置づけ					
実務経験のある教員による授業科目の配置					
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	受講可（5～10名）				
備考					

講義科目名称： 地域と観光Ⅱ

ナンバリング： 1-2-9-02

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位	選択
担当教員			
渡邊 太			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	15時間	国際文化交流学科	特別科目
添付ファイル			

授業概要	観光を学ぶためには、現場での実践を通じて学ぶことが大事である。この授業では、現場でのフィールドワークを通じて地域観光の魅力と課題を学び、グループワークを通じて観光資源開発に取り組む。多様なメディアを活用し、地域の魅力を発掘・発信する課題にチャレンジする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域観光の課題を把握し、解決に向けて取り組むことができる。(①)</li> <li>・地域観光の魅力を理解し、広く情報発信できる。(②)</li> <li>・観光文化の多様性を理解し、主体的に地域にかかわることができる。(③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	イントロダクション：地域観光の行方	渡邊	【事前】地域観光の情報を収集する。	3
	2	地域調査① 地域の課題を把握する	渡邊	【事後】調査結果を整理する。	3
	3	地域調査② 地域の資源を発掘する	渡邊	【事後】調査結果を整理する。	4
	4	地域調査③ 地域の課題解決を探る	渡邊	【事後】調査結果を整理する。	4
	5	地域調査④ 調査結果の整理と検討	渡邊	【事後】調査結果を整理し、観光資源としての価値を検討する。	4
	6	観光資源開発① 観光資源の分析	渡邊	【事後】観光資源分析にもとづき活用法の展開を考える。	4
	7	観光資源開発② 観光資源の活用	渡邊	【事後】発表資料を作成する。	4
	8	研究成果の発表	渡邊	【事前】発表の準備を行う。 【事後】研究成果をレポートにまとめる。	4
教材（テキスト、プリントなど）	資料を配付する。				
教材（参考文献など）	適宜、指示する。				
評価方法	発表10%、授業態度30%、提出物60%				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出物に対する評価基準を示す。				
資格選択区分					
教職科目の位置づけ					
実務経験のある教員による授業科目の配置					
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	若干名				
備考					

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年(集中)	1年次	2単位	選択
担当教員			
渡邊 太			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	30時間	国際文化交流学科	専門科目
添付ファイル			

授業概要	地域社会における観光振興の課題について、観光資源の発掘などフィールドワークを通じて考察する。観光の枠組みを通じて地域の魅力を再発見するとともに、フィールドワークと成果発表を通じて課題解決に必要なコミュニケーション力を養う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域観光の現状と課題について理解する。(①)</li> <li>・地域観光の課題を発見し、分析することができる。(②)</li> <li>・グループで協力し、積極的に地域の人々とかかわることができる。(③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	イントロダクション：観光を通じた地域社会の理解	渡邊	【事後】地域観光について情報収集する。	2
	2	観光と地域活性化	特別講師、渡邊	【事前】図書館とインターネットを活用し、情報収集する。 【事後】授業内容を復習する。	4
	3	フィールドワーク① 地域の現状と課題	渡邊	【事前】図書館とインターネットを活用し、情報収集する。 【事後】データを整理する。	4
	4	フィールドワーク② 観光資源の理解	渡邊	【事前】フィールドワークで得たデータを整理する。	4
	5	観光とビジュアル・コミュニケーション① 視覚記号とは	特別講師、渡邊	【事後】授業内容を復習する。	4
	6	観光とビジュアル・コミュニケーション② デザインとは	特別講師、渡邊	【事後】授業内容を復習する。	4
	7	観光とビジュアル・コミュニケーション③ 表現の工夫	特別講師、渡邊	【事後】課題に取り組む。	4
	8	観光とビジュアル・コミュニケーション④ 広報メディアの作成	渡邊	【事後】課題に取り組む。	4
	9	地域観光の活性化	特別講師、渡邊	【事前】図書館とインターネットを活用し、情報収集する。 【事後】授業内容を復習する。	4
	10	フィールドワーク③ 写真撮影ワークショップ	特別講師、渡邊	【事後】フィールドワークで得たデータを整理する。	4
	11	フィールドワーク④ 講評とふりかえり	特別講師、渡邊	【事後】成果を発表資料にまとめる。	4
	12	発表会準備：資料作成とリハーサル	渡邊	【事前】発表会の資料を作成する。 【事後】発表の練習を重ねる。	4
	13	成果発表会	特別講師、渡邊	【事後】発表内容を報告書にまとめる。	4
	14	報告書の作成	渡邊	【事後】報告書を完成させる。	4
15	まとめ：地域社会への貢献	渡邊	【事後】全15回の授業で学んだ内容を整理する。	6	
教材(テキスト、プリントなど)	資料を配布する。				
教材(参考文献など)	遠藤英樹ほか編(2019)『現代観光学』新曜社 JTB総合研究所編(2020)『インバウンド概論 改訂第5版』JTB総合研究所発行 その他、適宜指示する。				
評価方法	発表10%、授業態度30%、提出物60%				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	提出物に対する評価を返却する。				

の方法	
資格選択区分	
教職科目の位置づけ	
実務経験のある教員による授業科目の配置	
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	可（若干名）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
板倉 一枝・岡野 幸夫			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	1 5 時間	国際文化交流学科	専門科目
添付ファイル			

授業概要	この授業は、グループごとに地域に出かけてリサーチ活動を行います。また調べた内容をもとに地域課題について考察したことを発表し、地域住民との意見交換を行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に関心を持ち、地域課題に対して主体的にかかわろうとしている。(①)</li> <li>・調べたことや地域課題についてまとめ、人前でわかりやすく発表・提言、意見交換ができる。(②③)</li> <li>・グループ活動に積極的に参加するとともに、自分の役割を責任をもって遂行できる。(①③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	ガイダンス（「地域交流」のめざすもの）	板倉・岡野	【事後】調査内容に関して情報収集を行い、地域課題を見つける。	2
	2	リサーチテーマについて考える（地域の実情を知る）	板倉・岡野（特別講師）	【事後】講義の内容に関して、さらなる情報収集を行う。	2
	3	調査計画の立案、テーマについての下調べ	板倉・岡野	【事前】調査候補について下調べを行う。グループで調査の計画を練る。	3
	4	グループ討議	板倉・岡野	【事前】調査候補についてさらに調べる。自分なりのアイデアを検討し、授業時にグループ内で紹介できるようにしておく。	4
	5	調査内容の報告とまとめ	板倉・岡野	【事前】グループでアイデアをまとめ、発表の準備を行う。 【事後】結果をレポートにまとめる	6
	6	発表の準備	板倉・岡野	【事前】グループで成果物（レジュメ、スライド等）を作成し、発表練習を行う。	7
	7	調べたことを発表・意見交換する（地域の方との意見交換会の実施）	板倉・岡野	【事前】グループで発表の練習を行う	2
	8	振り返り、今後に向けて（主体的に地域と関わるには）	板倉・岡野	【事後】個人レポートを完成させる。	4
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
教材（テキスト、プリントなど）	テキストは使用しない。 必要に応じて資料を配付する。				
教材（参考文献など）	必要に応じて授業時に紹介する。				
評価方法	提出物 50%、授業態度 30%、発表 20%				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループで作成するレジュメやPowerPointのスライド資料については、授業内および授業外に添削し、指導を行う。				
資格選択区分	ビジネス実務士資格選択				

教職科目の位置づけ	
実務経験のある教員による授業科目の配置	
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	不可
備考	「プレゼンソフト活用演習」も併せて受講し、プレゼン技法についても学んでください。

講義科目名称： 地域と観光 I

ナンバリング： 1-1-2-09

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後 期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
岩崎 比奈子			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	1 5 時間	国際文化交流学科	特別科目
添付ファイル			

授業概要	観光に関する基礎的知識を体系的に習得するとともに、観光地の具体的な事例についてグループワークを行うことで、観光文化についてより深く学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光学の基礎を学び、観光文化の理解を深める。(①)</li> <li>・観光に関する情報を収集し、効果的に活用できる。(②)</li> <li>・観光について主体的に課題解決に取り組むことができる。(③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	0. オリエンテーション 1. 観光がもたらす効果・影響	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	2	2. 観光資源（全国、鳥取県）、旅行形態の変遷	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	3	3. 最近の旅行動向（全国、鳥取県）	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	4	4. 観光産業と商品・サービス	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	5	5. 訪日外国人（インバウンド）の旅行動向と受け入れ環境整備	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	3
	6	6. 観光による地域振興① <ケーススタディ：議論>	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、授業で取り組んだグループワークを完成させる。	4
	7	7. 観光による地域振興② <ケーススタディ：発表>	岩崎	【事前】 発表の準備を行う。	3
	8	8. 観光政策の概要と観光推進組織 9. 総括	岩崎	【事後】 個人レポートを完成させる。	8
教材（テキスト、プリントなど）	資料は適宜、配付する。				
教材（参考文献など）	JTB総合研究所『観光学基礎(第8版)』				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出状況・理解度 50%</li> <li>・グループワーク（議論・発表）への参画状況 50%</li> </ul>				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題内容に応じて、授業の中で補足や追加の解説を行う。				
資格選択区分					
教職科目の位置づけ					
実務経験のある教員による授業科目の配置					
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	受講可（5～10名）				
備考					

講義科目名称： 地域と観光Ⅱ

ナンバリング： 1-2-9-02

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位	選択
担当教員			
渡邊 太			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	15時間	国際文化交流学科	特別科目
添付ファイル			

授業概要	観光を学ぶためには、現場での実践を通じて学ぶことが大事である。この授業では、現場でのフィールドワークを通じて地域観光の魅力と課題を学び、グループワークを通じて観光資源開発に取り組む。多様なメディアを活用し、地域の魅力を発掘・発信する課題にチャレンジする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域観光の課題を把握し、解決に向けて取り組むことができる。(①)</li> <li>・地域観光の魅力を理解し、広く情報発信できる。(②)</li> <li>・観光文化の多様性を理解し、主体的に地域にかかわることができる。(③)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	イントロダクション：地域観光の行方	渡邊	【事前】地域観光の情報を収集する。	3
	2	地域調査① 地域の課題を把握する	渡邊	【事後】調査結果を整理する。	3
	3	地域調査② 地域の資源を発掘する	渡邊	【事後】調査結果を整理する。	4
	4	地域調査③ 地域の課題解決を探る	渡邊	【事後】調査結果を整理する。	4
	5	地域調査④ 調査結果の整理と検討	渡邊	【事後】調査結果を整理し、観光資源としての価値を検討する。	4
	6	観光資源開発① 観光資源の分析	渡邊	【事後】観光資源分析にもとづき活用法の展開を考える。	4
	7	観光資源開発② 観光資源の活用	渡邊	【事後】発表資料を作成する。	4
	8	研究成果の発表	渡邊	【事前】発表の準備を行う。 【事後】研究成果をレポートにまとめる。	4
教材（テキスト、プリントなど）	資料を配付する。				
教材（参考文献など）	適宜、指示する。				
評価方法	発表10%、授業態度30%、提出物60%				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出物に対する評価基準を示す。				
資格選択区分					
教職科目の位置づけ					
実務経験のある教員による授業科目の配置					
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	若干名				
備考					